

STSフォーラム (Science and Technology in Society forum)

実施予定期間：平成 23 年度

総括責任者：尾身 幸次（特定非営利活動法人 STS フォーラム 理事長）

実施責任者：芹澤 ゆう（特定非営利活動法人 STS フォーラム 事務局長）

I. 概要

科学技術の発達人類により大きな便益と福音をもたらすことが期待される一方で、人類と地球環境を脅かす存在にもなりうるとの認識のもと、世界各国の科学者、政治家、経済人、ジャーナリストが一堂に会して科学技術の“光と影”、科学技術と人類の未来に関して議論し、人類の発展と調和した科学技術の適切な発達に寄与することを目的として、NPO 法人 STS フォーラムは 8 年前に設立され、事務局を日本に置き毎年年度総会を京都で開催している。科学技術と人類の未来に関する国内最大の国際会議であり、世界の認知度も高まっている。今年度の年次総会全体会議及び特別会合では、エネルギーと環境・原子力の安全と将来の開発・国際保健における新しい挑戦・食料と人口問題・情報通信技術やナノテクノロジー等の議論を予定している。

これらを通じて得られる成果が各国内での議論、さらには国際社会において行われる分野別あるいは二国間・多国間の議論にまで影響を及ぼし、波及していくことをねらいとしている。このような会合を継続して開催し、世界のリーダーのための運動に成長することにより、人類のよりよい未来の建設に貢献していくことを目指している。

1. 目的

近年、科学技術は急速に発展し、人類の生活の向上・経済の発展に大きく貢献してきた。その反面、環境問題（地球温暖化等）、クローン人間の問題、IT(情報技術)とプライバシー侵害の問題などの、科学技術の発展に伴うマイナス面も生じてきている。すなわち、科学技術の発展には“光”と“影”の両側面がある。

今後の人類の将来を考えると、こうした科学技術が人類の生活の向上や経済の発展に寄与するいわゆる“光”の部分を伸ばし、“影”の部分をコントロールしていく必要がある。このためには、科学技術の専門家のみならず、政治家・政策担当者・経営者といった幅広い分野の人々が、しかも、世界中から集まり一堂に会して、科学技術をどのように扱っていくかを議論する必要がある。

このために設立されたのが NPO 法人 STS フォーラムであり、科学技術分野における共通の価値観の確立に向けて、世界中の幅広い分野の人々が議論し、世界規模の行動につなげていくことを目的としている。

2. 必要性

科学技術は、21 世紀にその歩みを加速し、持続的な人類の発展をもたらす鍵として期待されているところであり、我々はその叡智を結集してこうした科学技術を活用するとともに適切にコントロールしていく必要がある。

我々が直面している問題、科学技術の“光と影”の問題は、グローバリゼーションと国際競争を背景にますます複雑化しているため、一国だけでは解決できるものではない。また、これらの問題は、その多くが社会システムの見直し、国際協力、世界規模のネットワーク及び共通のルール形成を通じて解決策が見出されるものであるため、科学技術の専門家のみによって構成される科学コミュニティだけで解決できるものではない。

従って、科学技術分野における共通の価値観の確立に向け、科学技術の専門家だけでなく、世界中の政治家、政策担当者、経済人、ジャーナリストなどのトップリーダーが科学技術の“光と影”の問題を議論し、世界規模の行動につなげていくことが期待されている。

これまでにフォーラムの開催は 7 回を数え、昨年（2010 年）は世界中から政治家・経営者・政策担当者・学者等約 1,000 名が集まり、上記について議論した。毎年京都で開催されている STS フォーラムは、科学技術と人類の未来について語る場として世界の認知度が高まっている。

STS フォーラムは事務局を日本に置き、毎年年度総会を京都で開いている。持ち回りでの開催、あるいはその年だけ日本で開催されるものではない。STS フォーラムは日本で実施されている、科学技術と人類の未来に関する最大の国際会議であり、国際的なコミュニケーションの場として定着しつつある。まさに国際政策対話の実現・科学技術外交の推進そのものである。

今年の具体的な全体会議のテーマは、エネルギーと環境・原子力の安全と将来の開発・国際保健における新しい挑戦・食料と人口問題・情報通信技術やナノテクノロジー等が、議論の対象となる予定である。

科学技術と人類の発展についての議論は高まってきている一方で、その支援サポート体制は必ずしも固まっているとは言い難く、政府からの支援をお願いする次第である。

3. 具体的内容

a. 第8回 STS 年次総会の準備及び開催

国内外のリーダー、科学者、産業人を招へいし、エネルギーと環境・原子力の安全と将来の開発・国際保険における新しい挑戦・食料と人口問題・情報通信技術やナノテクノロジー等について議論する総会を開催する。テーマと議題は以下のとおり。また、開催前の準備として、内外参加者の招聘、参加者受入対応（宿泊、移動、警備等）、会議場設営等の業務を実施する。

テーマ：科学技術の光と影 Lights and Shadows of Science and Technology

- ・エネルギーと環境
- ・原子力の安全と将来の開発
- ・国際保健における新しい挑戦
- ・食糧と人口
- ・将来の情報通信技術は、経済活動とその他社会の側面の何を変えるか
- ・ナノテクノロジー
- ・長期にわたる持続可能性
- ・産学官連携
- ・科学技術外交
- ・気候変動
- ・マスメディアの役割
- ・新しい教育モデル

b. STS フォーラム特別会合の準備と開催

関係者との調整を実施後、特別会合（科学技術大臣会合・科学アカデミー会長会合・大学学長会合・科学技術資金支援機構代表者会合・工学アカデミー会長会合）を開催する。

第8回年次総会と同会場にて開催する。

c. STS フォーラム理事会の開催

本年度の収支見通し・次年度における事業計画・収支決算について議論及び承認を行う。

第8回年次総会と同会場にて開催する。

d. 評議員会の開催

(1) 第8回 STS フォーラム年次総会における声明について議論し、まとめる。第8回年次総会と同会場にて開催する。

(2) 第8回 STS 年次総会の報告を行うとともに、第9回年次総会と特別会合におけるテーマ・内容及びスピーカー候補者について議論を行う。平成 24 年 1 月に米国ワシントン DC にて開催する。

4. 波及効果

世界中の政官産学界等のトップリーダーが集まり、科学技術の“光と影”の問題について議論することにより、STS フォーラムを通じて得られる成果が各国内での議論、さらには、今後国際社会において行われる分野別あるいは二国間・多国間の議論にまでも影響を及ぼし、波及していくことをねらいとしている。このような STS フォーラムを継続して開催し、世界のリーダーのための運動に成長することにより、人類のよりよい未来の建設に貢献していくことを目指している。

5. 実施計画

a. 第8回 STS 年次総会の準備及び開催

b. STS フォーラム特別会合の準備と開催

10月2日から4日までの3日間の日程にて以下のスケジュールにて開催する。

10月2日

【開会式】科学技術—人類の未来のために

【全体会議】①革新の進展—政界リーダー・科学者・産業人で討論

②エネルギーと環境

③原子力の安全と将来の開発

【特別会合】科学技術大臣会合・科学アカデミー会長会議

【分科会】①移動のエネルギー

②先端オーダーメイド医療

③ナノエレクトロニクス

④学界・産業界・政府の連携

⑤水

⑥人間居住の発展：スマートシティ

⑦科学技術におけるメディアの役割

10月3日

【全体会議】①国際保険における新しい挑戦

②食料と人口

③将来の情報通信技術は、経済活動とその他社会の側面の何を変えるか

【特別会合】大学学長会議・科学技術資金支援機構代表者会議・工学アカデミー会長会議

【分科会】①再生可能・過渡的なエネルギーへの挑戦と解決策

②加齢の科学

③健康のためのナノテクノロジー

④21世紀のための科学工学教育

⑤森林保護

⑥途上国における能力向上

⑦持続可能な世界のための人間行動の改善

⑧原子力技術の展望

⑨感染症、伝染病

⑩新素材

⑪21世紀のための新しい大学モデル

⑫海洋保護

⑬人間居住の発展：気候変動への適応

⑭科学技術外交と国際協力

10月4日

【全体会議】①分科会報告

②持続可能性—人類の未来のために

【閉会式】

c. STS フォーラム理事会の開催

本年度の収支見通し・次年度における事業計画・収支決算について議論及び承認を行う。

10月2日～4日の間、第8回年次総会と同会場で開催する。

d. 評議員会の開催

- (1) 第8回 STS フォーラム年次総会における声明について議論し、まとめる。10月2日～4日の間、第8回年次総会と同会場にて開催する。
- (2) 第8回 STS 年次総会の報告を行うとともに、第9回年次総会と特別会合におけるテーマ内容及びスピーカー候補者について議論を行う。平成24年1月に米国ワシントンDCにて開催する。

6. 参加者のターゲット

世界中の政官産学界のトップリーダー

ノーベル賞受賞者・大学学長・科学/工学アカデミー会長・研究機関の長等
 総理大臣・科学技術大臣等
 経済団体会長・大企業グループ会長等
 研究資金提供機関代表者
 各国有名雑誌編集長等

7. 規模

参加予定の国・地域：新参加国を含め 100 以上の国・地域及び国際機関
 参加予定者数：内外計 約 1,000 人

8. 実施期間の適性

トップリーダーが参加しやすいように、毎年 10 月第 1 日曜～火曜開催（3 日間）が確定している。

9. 実施体制の妥当性

理事会・評議員会を開いて、毎年議論すべき適切なテーマと、それにふさわしいスピーカーを選んでいる。
 理事会・評議員会は政治家代表・科学者代表・企業代表等からなり、理事は海外の理事が 3 分の 1 以上、評議員会メンバーの出身国・地域は 26 カ国・地域及び 1 国際機関である。

10. 政策対話を目指す国際集會開催等に関するこれまでの実績

開催年	開催地	参加国数	参加者数
2004 年（第 1 回）	京都市（日本）	51（国・地域及び国際機関等）	約 410 人
2005 年（第 2 回）	京都市（日本）	57（国・地域及び国際機関等）	約 570 人
2006 年（第 3 回）	京都市（日本）	67（国・地域及び国際機関等）	約 610 人
2007 年（第 4 回）	京都市（日本）	62（国・地域及び国際機関等）	約 690 人
2008 年（第 5 回）	京都市（日本）	81（国・地域及び国際機関等）	約 780 人
2009 年（第 6 回）	京都市（日本）	85（国・地域及び国際機関等）	約 800 人
2010 年（第 7 回）	京都市（日本）	104（国・地域及び国際機関等）	約 1000 人

11. 政策対話を有効なものとするための工夫

- a. 提案国際集會 STS フォーラムは事務局を日本に置き、毎年年次総会は日本の京都で開いている。持ち回りでの開催、あるいはその年だけ日本で開催されるものではない。“科学技術の光と影”というテーマで、世界中から各界のトップリーダーが参加する STS フォーラムは、まさに日本がリーダーシップを発揮できる場、と考えられる。
- b. 年次京都総会の最終日に Statement を取りまとめて、議論の集約化を図っている。
- c. 世界中からのトップリーダーが多数集まる機会を活用し、科学技術大臣会合・機関長会合・学長会合等の特別会合を開催している。

- d. 10 月の 3 日間だけではなく、年間を通じて、各種個別会合の開催により、世界各地で多くの意見交換・交流を行っている。

12. プロジェクトの継続性・発展性

AA-STS(American Associates of the STS forum)の創設

STS フォーラムは 2003 年 9 月、米国科学アカデミー本部（ワシントン）においてその創設が宣言された。翌 2004 年 11 月に京都にて第 1 回設立総会が開催されて以降、世界のリーダーが一堂に会して、科学技術と人類の未来に関する重要な問題を解決するためにその叢智を結集する、真の運動へと発展してきている。

こうした発展の中にあつて米国の関係者は極めて大きな役割を果たし、2010年11月、STSフォーラム アメリカン アソシエイツ (AA-STC 米国規約 501(c)(3) によって免税法人として指定された) が創設された。米国における支援活動を年間を通じて行い、長期的な視点に立つ STS フォーラムを議論の質と財政基盤の両面から支えることを目的として、フォーラムへの招聘や寄付の呼び掛けなどの活動を行うものである。

<役員>

会長 チャールズ O. ホリデー Jr.
バンク・オブ・アメリカ会長、前デュボン会長
理事 リタ R. コルウェル
メリーランド大学教授、ジョンズ・ホプキンス
大学教授
ジェローム I. フリードマン
マサチューセッツ工科大学名誉教授、
1990年度ノーベル物理学受賞者
ダニエル S. ゴールディン
インテリシス会長、元 NASA 長官
バルタン・グレゴリアン
ニューヨーク・カーネギー財団理事長
エリス・ルビンシュタイン
ニューヨーク科学アカデミー会長兼最高経営
責任者
エリアス A. ザファーニ
グローバルリサーチアンドデベロップメント、
サノフィアベンテイス SA 社長 元 NIH 長官

13. 実施体制

理事長 尾身 幸次
事務局長 芹澤 ゆう

a. 理事会

総会に付議すべき事項・事業計画及び収支予算並びにその変更等を行う。

メンバー 理事 15人 (現在)

1. シセローン・ラルフ J.、全米科学アカデミー会長

2. デマレスコ・フィリップ、リヨン科学財団副会長、バイオビジョン会長
3. フリードマン・ジェローム I.、マサチューセッツ工科大学名誉教授
4. ノーベル物理学賞受賞
5. 林 康夫、独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO) 理事長
6. ホリデー・Jr.・チャールズ O.、競争力評議会名誉会長、前デュボン会長
7. 川村 隆、株式会社日立製作所会長
8. 北澤 宏一、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) 理事長
9. 小宮山 宏、株式会社三菱総合研究所理事長
10. 黒川 清、政策研究大学院大学教授
11. 西田 厚聰、株式会社東芝会長
12. 岡本 一雄、トヨタ自動車株式会社代表取締役副会長
13. ヴァールベリ = ヘンリックソン・ハリエット、カロリンスカ研究所長
14. ヨー・フィリップ、首相府経済開発担当特別顧問 SPRING・シンガポール長官
15. 米倉 弘昌、日本経済団体連合会会長、住友化学株式会社会長
16. 吉川 弘之、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) 研究開発戦略センター長

米国 3人

フランス 1人

スウェーデン 1人

シンガポール 1人

大企業グループ会長、科学アカデミー会長等

b. 評議員会

基礎会員 73人で構成

STS フォーラムの運営について理事長の諮問に応じ、意見を具申する。

c. 事務局

根岸・木村・石川